

◆一緒に講座を作りませんか？

アルザにいがた企画委員 募集中!

男女共同参画に関する講座を一緒に企画・運営してくれる市民の皆さんを募集しています。

～応募要件～

市内に在住・通学・通勤している18歳以上(高校生不可)で、アルザにいがた主催講座に参加したことがある方(上映会は除きます)

～活動内容～

- 企画委員会(全体会議)年1~2回
- 担当講座の企画会議、当日の運営 年10回程度
- ⇒ 講座内容、講師の検討、講座の準備、司会、まとめなど



企画委員募集
詳細はこちらから

◆男女共同参画社会の推進を目指すイベントです

アルザフォーラム 2025 実行委員 募集中!

「アルザフォーラム」は、市民中心の実行委員会の主催により、男女共同参画を広く啓発するアルザのイベントです。企画や運営に携わってくださる方を募集します。

～応募要件～

市内に在住・通学・通勤している18歳以上(高校生不可)でジェンダーについて関心のある方

～活動内容～

- 実行委員会への出席 年15回程度
- 基調講演、分科会などの企画・運営
- テーマ(キャッチコピー)決め
- PR活動(広報活動)など



アルザフォーラム実行委員募集
詳細はこちらから

企画委員・実行委員 共通事項

- 任期 1年間 ※企画委員の再任の上限は10年とします。
- 保育 あり(対象:生後6カ月から就学前まで)
- 謝礼 1回2,500円(約2時間)、上限30,000円
- 選考 個別に面談を実施し、申込の内容・経験などを総合的に判断し決定します。
- 応募締切 令和7年2月27日(木) 必着



メール配信「アルザ情報」

講座情報等を月1回のペースで配信しています!ぜひご登録ください。



alza@city.niigata.lg.jp

←件名を「アルザ情報希望」としメールを送ってください♪
本文は不要です。受信後、確認の返信メールを送付します。
土日及び祝祭日を除き、3日後までに届かない場合は、お手数ですがアルザにいがたまでご連絡ください。

情報図書室より 防災に関する本をご紹介します



災害支援に女性の視点を!
竹信 三恵子/編、赤石 千衣子/編
岩波書店(岩波ブックレット)

東日本大震災で被災した女性たちの苦しい実態が記されています。災害時の被災者支援は男性基準で進められ、女性は意見することができず、性被害も表面化しにくかったと述べられており、災害対策に「女性の視点」を入れることの重要性を説いています。



最新 子連れ防災 BOOK
全災害対応!被災ママパパ1648人と作りました
富川 万美/著 祥伝社

阪神淡路大震災から能登半島地震、豪雨や洪水といった災害まで被災ママ・パパの体験をもとに子どものいる家庭に必要な防災をまとめた一冊です。「頑張る防災は続きません。親子で楽しみながら行うことにより生きる力や身を守る力を育ててくれます。」と著者は述べています。



災害とトイレ 緊急事態に備えた対応
日本トイレ協会/編 柏書房

水害や停電、大規模な地震が起きるとトイレは使えません。そして避難所のトイレは妊産婦、障がい者、高齢者、性的少数者など多様な立場の視点に立った配慮が必要です。緊急時に自宅のトイレの対処法や簡易トイレの使用法など、いざという時に役立つ知識を紹介しています。



命を守る防災 GUIDE 完全保存版
マガジンハウス/編 マガジンハウス

知っておきたい防災の基本的な考え方や備えておきたい防災グッズを写真やイラストを交えてわかりやすく紹介しています。また、東日本大震災を経て立ち上がりつつある東北の現在も紹介されており、防災を考えるには実状を知り心を寄せることも大切だと述べています。



アルザにいがた情報図書室は、
新潟市図書館のカードで貸出ができます。

開室時間:月~金曜日 10:00~17:30
休室日:土日および祝祭日、第1水曜、第4月曜(第4月曜が休日の場合は翌日も)、年末年始(12/29~1/3)、蔵書点検期間(1/30~2/5)

特集

・「男女共同参画に関する基礎調査報告書」から
・男女共同参画の視点からの防災



アルザにいがた

発行/新潟市男女共同参画推進センター「アルザにいがた」
新潟市中央区東万代町9-1 万代市民会館内
電話:025-246-7713 8:30~17:30 土日及び祝祭日を除く
URL:https://www.city.niigata.lg.jp/kurashi/danjo/alza/
E-mail:alza@city.niigata.lg.jp



「アルザ」は、「志気を高める」、「高揚」という意味のスペイン語の「alza(アルサ)」が語源。開館5周年の公募で決定、センターが男女共同参画について意識を高める場であってほしいという願いが込められています。



アルザにいがた X (旧 Twitter)
講座情報や新着図書情報、職員が日常で感じたジェンダーに関することをつづやっています。コメントやいいね、お待ちしております♪



情報紙のご意見・ご感想をEメールでお寄せください。



～「男女共同参画に関する基礎調査報告書」から～

新潟市では、今年度、男女共同参画を推進するための施策や事業の資料とすることを目的に、「男女共同参画に関する基礎調査」を実施しました。

この調査は5年に1度実施していますが、前回の令和元年度の調査から市民の皆さんの意識はどう変わったのでしょうか。調査報告書から一部を紹介します。

調査期間：令和6年9月2日～9月17日

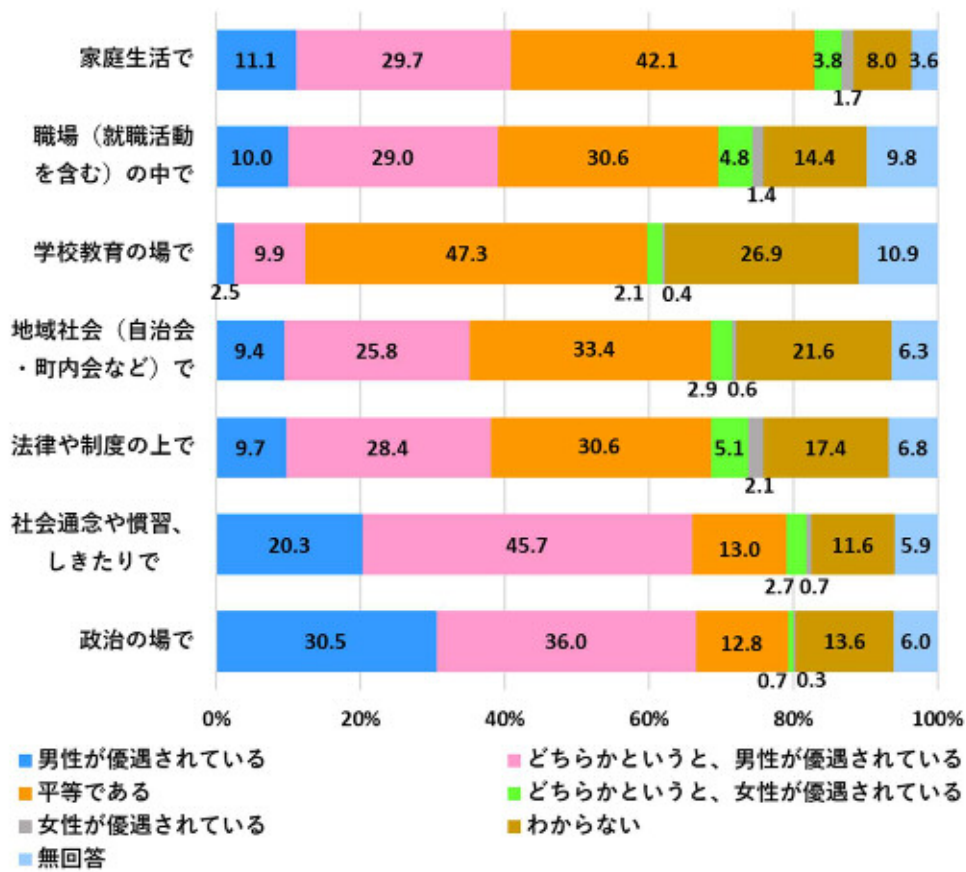
調査対象：新潟市内に居住する満15歳以上の4,000人

有効回収数（率）：1,878人（47.0%）



◆男女の地位の平等感

男女の地位の平等感について7つの場面・分野で調査しました。



「男性が優遇されている」「どちらかという、男性が優遇されている」を合わせた『男性優遇』と答えた割合は、「政治の場で」（66.5%）及び「社会通念や慣習、しきたり」（66.1%）で割合が高く、6割を超えました。次いで、「家庭生活で」（40.8%）、「職場の中で」（39.0%）、「法律や制度の上で」（38.1%）が約4割を占めました。

「女性が優遇されている」「どちらかという、女性が優遇されている」を合わせた『女性優遇』と答えた割合は、7つの場面・分野とも1割以下という結果でした。

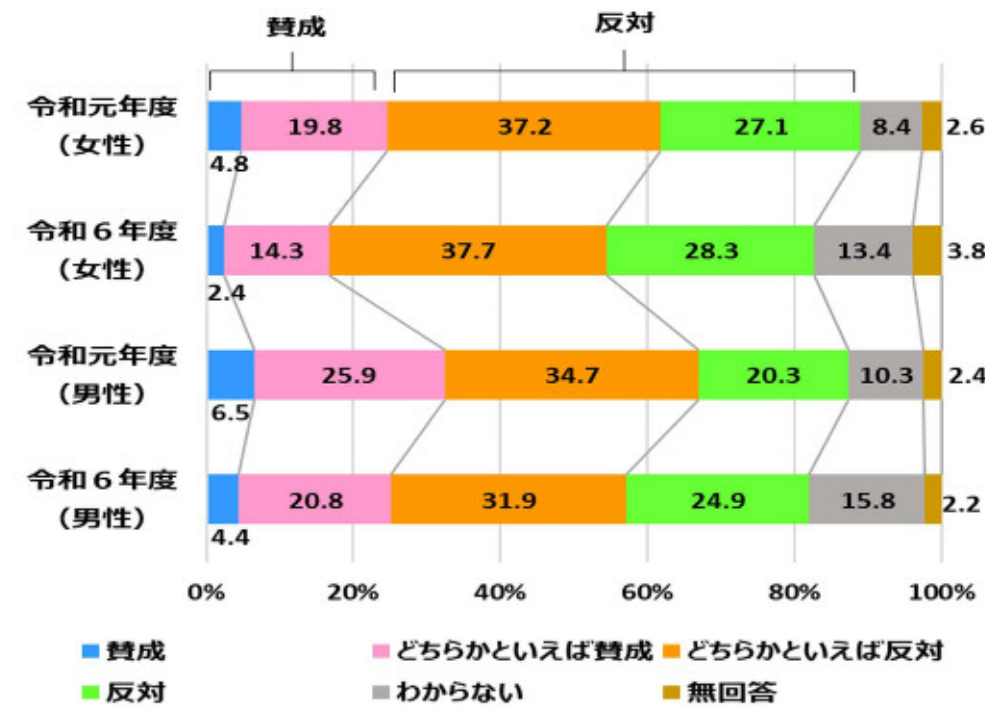
「平等である」と答えた割合は、「学校教育の場で」（47.3%）で最も高く4割を超えました。

前回調査と比較すると、『男性優遇』の割合は、「政治の場で」（6.6ポイント減）、「社会通念や慣習、しきたり」（8.8ポイント減）、「家庭生活で」（5.6ポイント減）、「職場の中で」（11.5ポイント減）で減少しました。「平等である」の割合は、「家庭生活で」（9.2ポイント増）で増加しました。

前回調査よりも「平等である」が増加しているものの、まだ男女平等な社会とは言えないようです。

◆男女の役割についての考え方

「男（夫）は仕事、女（妻）は家庭」という考え方について調査しました。



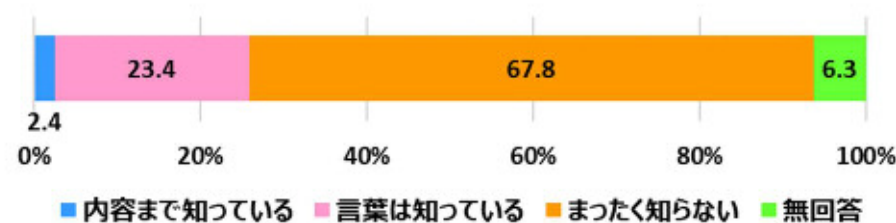
「男（夫）は仕事、女（妻）は家庭」という考え方に「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成』と答えた割合は女性16.8%、男性25.2%、「反対」「どちらかといえば反対」を合わせた『反対』と答えた割合は女性66.0%、男性56.8%という結果でした。

前回調査に比べて、『賛成』が女性で7.9ポイント、男性で7.2ポイント減少し、『反対』が女性で1.7ポイント、男性で1.8ポイント増加しました。

「男は仕事、女は家庭」といった男女の固定的な役割分担意識は、少しずつ解消されてきています。

◆アルザにいがたの認知度

最後に、アルザにいがたの認知度はどうだったでしょうか。



男女共同参画を推進する拠点施設であるアルザにいがたについて、「内容まで知っている」「言葉は知っている」と答えた割合は25.9%でした。認知度の向上に向け、さらなる周知に努めていきます。

調査の結果をもっと詳しくお知りになりたい方は、新潟市のホームページに報告書を掲載しておりますのでご覧ください。

▶市HPから [男女共同参画基礎調査](#)

スマートフォンは から

男女共同参画の視点からの防災

能登半島地震から1年が経ちました。災害はいつどこで起こるかわかりません。なぜ防災に男女共同参画の視点が必要なのかあらためて考えてみましょう。



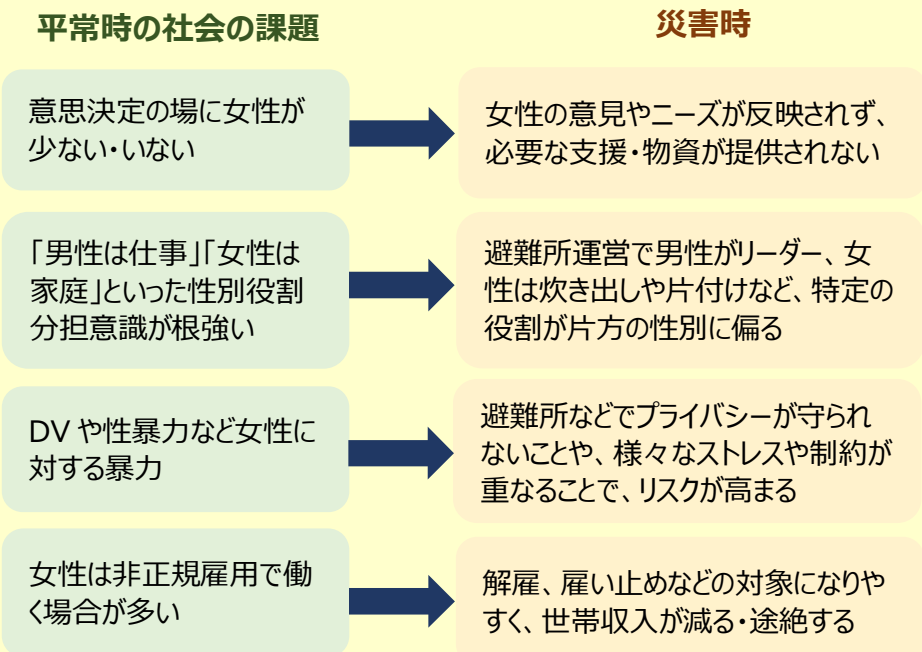
◆避難所において女性の参画が十分でない

- ・人目を気にせず着替えるスペースがない
- ・プライバシーが守られない
- ・授乳室がない
- ・生理用品や下着を男性が配っていて受け取りづらい
- ・トイレが男女別に分かれていない ・トイレの数が少ない
- …といったことが起こるかもしれません。

◆災害時の女性に対する暴力

- ・災害をきっかけにDVが始まった、もともとあった暴力が悪化した
- ・避難所で、男性が隣に寝に来る、からだを触る、授乳の注視、のぞき、不同意性交等
- ・権限を持つ支援者からの「対価型」暴力や、被災者から支援者への性的嫌がらせ
- …といったことが過去の災害で報告されています。

◆災害時には平常時における社会の課題が顕在化



■災害対応力を強化するには

平常時にできないことは、災害時にはなおさらできません。防災会議の女性委員がゼロの市区町村より、女性委員が10%以上の市区町村の方が、女性用品や乳幼児用品、介護用品、パーティションの備蓄割合が高いとの調査結果があります。女性と男性のニーズの違いを踏まえて備蓄物資を選定したり、災害対応の意思決定の場に女性が参画することが必要です。女性が参画することで、多様な視点が反映されることにつながります。平常時から男女共同参画の視点を取り入れた防災体制の整備を進めることが大切です。